

市議会民生福祉常任
委員会視察報告

姫路市の生涯現役推進計画、 岡山市の病児保育の取り組みを学びました

5月23日から25日まで、市議会民生福祉常任委員会の委員会視察に参加しました。姫路市では、前市長の肝いりで始めた「生涯現役推進計画」について、岡山市では、今年から釧路市でも始まった「病児保育」の先進事例を学びました。



姫路市は、誰もが生涯にわたり心身ともに健康で生き生きと生活できるように、

「生涯現役社会」の実現をめ

ざしています。とくに「主観的な健康観」を良好に保つこと、必要な支援を受けながら自らの選択と責任に基づいて自立した生活を送ること、仕事やボランティアなどに目的をもって楽しみや喜びを感じながら参加する高齢者となれるように、各種の施策を講じ、総合的な計画を立てて推進しています。

高齢者が「いつまでも現役」と感じられる地域づくりは、高



子どもが病気になると一般的には保育園は預かってくれません。その時、頼みの綱になるのが保育士のほかに看護師なども配置されている

「病児保育」です。釧路市でも、この春からスタートしました。

岡山市の病児保育は全部で6か所、定員37人で、今年度3か所を増やす予定です。現行の施設は全て小児科の診療所に併設されています。

朝、小児科を受診して、そのまま病児保育に預けて、親は仕事に行くという感じで利用されています。

コロナ禍で採算問題が

国も積極的に病児保育に力を入れ始めました。国や自治体からの財政

高齢化社会が進む中、非常に示唆に富んだ取り組みです。

高齢者の健康、就労などを質問

村上議員は、「なぜ健康を病気がない状態ではなく、主観的な健康観としてとらえるのか」「高齢者の就労支援の取り組みはどうか」「生涯現役推進専門員とは何か」などを質問。「主観的な健康観でとらえることで、病気などの人にも参加を広げることができる」「高齢者を積極的に雇用している企業を顕彰する取り組みを始めた」「元教員の方を1名、会計年度任用職員として雇用し、高齢者向けの講座の講師をしたり、相談活動をしている」との説明を受けました。

支援と利用料で運営していますが、コロナ禍で利用が急減。国は公的な支援分を大幅に増やしましたが、これからの見通しは不透明です。

利用料軽減も必要

岡山市の利用料は一日2500円ですが、生保世帯・非課税世帯は500円に減額する制度を利用できます。釧路市で始まった「病児保育」の利用料は4000円。釧路市でも軽減制度の導入を検討してもよいのかもしれません。



岡山市



姫路市

「健康な高齢者」を社会の積極的な担い手と位置づけて、様々な取り組みを進めることは大賛成です。しかし、姫路の取り組みでは高齢者の貧困化、医療や介護の貧困の問題を突く視点は無いようです。こうした問題も一緒に解決する取り組みをしたいものです。

